

特別展 生誕220年 広重展

雨、雪、夜 風景版画の魅力をもとく



歌川広重 《東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景》
「広重展」より

夏休み 親子で楽しむ美術館

アート de 動物 大集合！

特別陳列 前田家の名宝

江戸の動物画優品選

優品選【近現代絵画・彫刻】

水辺をたんけん！【近現代工芸】



上田珪草 《騾》
「アート de 動物 大集合！」より

- 8月の企画展示室
- バスツアー報告
- ミュージアムレポート・文化財現地見学予告
- 夏のミュージアムウィーク
- 企画展Topics「URUSHI 伝統と革新」

第7・8・9展示室

生誕220年 広重展 雨、雪、夜 風景版画の魅力をもとく

主催：北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館 後援：石川県、金沢市、金沢市教育委員会、エフエム石川
企画協力：青幻舎プロモーション 協賛：東海東京証券

7月27日(金)～8月26日(日) 会期中無休

◆観覧料

	一般	中高生	小学生
個人	1,000円	700円	400円
団体	800円	500円	200円

◆お問い合わせ(平日10時～17時)

北陸中日新聞事業部 電話〇七六一二二三三―四六四二

※団体は二十名以上。県立美術館友の会会員は団体料金。身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方は前売り料金。付き添い一人は無料。

歌川広重(一七九七～一八五八)は、葛飾北斎とともに風景版画家として幕末浮世絵を支えました。三十七歳頃に刊行した保永堂版「東海道五拾三次之内」が大人気となり、その後は生涯を通じて風景版画を描き続けました。居ながらにして旅の気分を味わうことのできる街道絵、各地の名所を描く名所絵と、彼の描き出す風景は多岐にわたります。しかし、広重の場合は、単に名所絵を描くのではなく、季節、天候、時間帯などさまざまな組み合わせを設定することによって、行ったことのない場所の魅力が倍增されます。「雪の蒲原」「雨の庄野」などはその典型的な作例です。

今回の展覧会は、広重の生誕二二〇年にあたり、代表作の保永堂版「東海道五拾三次」全作品のほか、江戸や全国各地の名所絵など、主要な版画約一五〇点を展示します。また、ゴッホが模写したことでも有名な『名所江戸百景』の「亀戸梅屋敷」や「大橋あたけの夕立」など西洋絵画にも影響を与えた四点や、『六十余州名所図会』から北陸地方を描いた作品四点多特別に展示し、繊細な自然描写やユーモラスな人

物描写など、なつかしい日本の原風景の情趣を描き出してやまない広重作品の魅力を紹介します。

◆記念講演会

「北斎か広重くらべて分かる名作のからくり」

講師：神谷浩氏(名古屋博物館副館長)

日時：七月二十八日(土)午後二時～

「広重とめぐる東海道」

講師：前田詩織氏

(中山道広重美術館キュレーター)

日時：八月十八日(土)午後二時～

※いずれも会場は石川県立美術館ホール。先着二〇〇名。聴講には本展の入場券が必要です。

◆前売り券取扱場所

チケットぴあ(Pコード7691069)、ローソンチケット(Lコード53174)、セブンチケット、石川県立音楽堂チケットボックス、香林坊大和PG、アピタ松任テイオ、うつのみや各店、金沢中日文化センター(めいてつ・エムザ二階)、北陸中日新聞販売店、中日サービスセンター(北陸中日新聞本社一階)



歌川広重 《東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪》



歌川広重 《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》

江戸の動物画優品選

7月27日(金)～8月28日(火) 会期中無休

今回は屏風を中心として、江戸時代後半に描かれた動物画の優品を展示します。たとえば猿が、軍事や農耕にとって重要な馬を守護し、災難を退けるものと認識されていたように、動物は吉祥的な意味をもって描かれることが多かったようです。その一方で、織田信長や豊臣秀吉の時代には、虎や唐獅子が権威の象徴として対面空間を飾る画題となりました。

そして江戸時代の後半になると、博物学的な関心の高まりを受けて、画家は写実的な描写を意識するようになりました。今回展示する円山応挙、岸駒、佐々木泉景の作品には、確かにそのような傾向が認められますが、そこはどれも個性豊かな画家らしく、単に図鑑の挿図のように描かず、擬人化や様々な情念の投影が認められます。そこで、兎、猿、虎、

鹿などの描かれた動物たちの表情や動作から、絵の中にどのようなストーリーが展開しているのかを楽しく想像してみると、鑑賞法はいかがでしょうか。夏休みのこの時期、ご家族で一つの作品について意見を交換し合うのもおもしろいと思います。

さらに、応挙と岸駒、岸駒と泉景の間にはライバル意識もあったようです。特に岸駒は金沢から京都に上り長年にわたり苦勞をしますが、やがて有栖川宮家の評価を獲得し、京都画壇で揺るぎない地位を確立します。当然そこにはかつて学んだ応挙一門との確執も生じたことでしょう。そして岸駒は、一八〇九年に金沢城二の丸御殿障壁面制作で泉景と筆を競っています。



県文《虎図》岸駒、右隻部分

前田家の名宝

7月27日(金)～8月28日(火) 会期中無休

今回の特別陳列では、国宝《広田社二十九番歌合》三巻のうちの下巻(題「述懐」)すべてを展示する点にまずご注目いただきたいと思えます。『広田社二十九番歌合』は承安二年(一一七二)十二月、平安時代後期の歌人道因(藤原敦頼)が撰歌・結番したものに、歌人藤原俊成が加判した後、能書家藤原実家が清書を行い、撰津国広田社に奉納された歌合です。成立の背景は、二年前に道因が勸進・奉納した『住吉社歌合』に感銘を受けた広田社の神が、同様の歌合を自分も欲しいと道因に夢で告げたためといわれています。このときの加判原本と清書本は現存せず、判者の俊成が原本から転写した自筆の手控本が本作です。当時俊成は五十九歳で、本作は年紀が明確な俊成の書風を伝えている点でも貴重な資料です。下巻に貼られ

た付箋から、冷泉為広(一四五〇～一五二六)がかつて所持していたことがわかり、前田家の所蔵となったのは、加賀藩三代藩主・利常の時代のようです。

また今回は、前田家に伝来した古筆切のうちの優品二十八枚を選んで、前田家十六代・利為が昭和十二年(一九三七)に作らせた重文《手鑑 野辺のみどり》も展示します。「野辺のみどり」という名称は、一枚目の伝記貫之筆「寸松庵色紙」の「わかせこかこころもはるさめふることにのへのみとりそいるまさりける」に由来します。作製の監修には、古筆の第一人者で『源氏物語絵巻』『平家納経』等の文化財複製を行った田中親美があたり、今回はその関連として《巖島納経 模本 提婆達多品第十二》も展示します。

国宝《広田社二十九番歌合》部分

第6展示室

夏休み 親子で楽しむ美術館 アート de 動物 大集合！

7月27日(金)～8月28日(火) 会期中無休

学芸員の眼

「夏休み親子で楽しむ美術館」では、毎年展示のテーマに合わせて、小学生親子を対象とした制作体験も行っています。八月十日開催は「レッツ、マリオオッティ！〜手遊び動物園〜」。イタリアのマリオ・マリオオッティは、影絵遊びの時のキツネや犬のように、自分の手を動物の形に見立て、色も塗って写真撮影をする造形作家です。あなたもマリオオッティさんになって自分の手を動物に変身させましょう。八月十二日開催、「動物園 de スケッチGO!」は、美術館に楽しく学べる移動動物園がやってくる講座です。園長さんからの動物に関するお話の後、好きな動物を選んでスケッチする活動です。どちらの講座も参加申し込みが必要です。詳しくは美術館だより六月号をご覧ください。



「夏休み親子で楽しむ美術館」の今年のテーマは「アート de 動物 大集合!」。絵や彫刻作品をはじめ、陶芸や漆芸、染織などの工芸作品で、いろいろな動物と出会うことができる展示室です。

アートの始まりといわれる先史時代の動物が描かれた洞窟壁画は、自分たちの生活を守る狩猟の対象として、呪術や祭祀のために描かれたといわれています。人間と動物のかかわりはこのように古く、人々は動物の姿や形、そして、くらしの中での関わり合いを様々なかたちで数多く表現してきました。また、動物の中には、姿の美しさやたくましさ、そして、人間を越える数々の能力を有しているものもあります。厳しい自然の力の象徴や、超自然的な力を備えた神仏として畏怖される動物

もおり、動物造形は人と社会の歴史・文化・宗教などの影響を色濃く反映したものでもあります。

時代が進み、動物を伝統的な観念や価値観だけで見る事が中心だった時代から、自然主義や自然科学の発展により、自然を合理的に観察する態度が芽生えはじめました。動物を正確でリアルな表現の対象として表す意欲も生まれ、それによって動物の新たな魅力の発見と表現が行われるようにもなりました。

本展では、このような長い歴史の中で生み出された人間のくらしにおける動物とのかかわり、また、動物に抱く多面的な想いを感じつつ、それが多彩な動物表現つながったことを味わっていただきたいと思っています。



高橋介州 《神韻大香炉》

優品選

7月27日(金)～8月28日(火) 会期中無休

近現代絵画・彫刻の分野では、「初夏の彩り」と題した前回の優品選につづき、夏から初秋を意識したチョイスです。各分野より作品をご紹介します。

日本画では、まず人物画から。稲元実の《夏日》は、四十歳を前にした、作家として脂がのった時期の作です。ひまわりと夏の夕空を背景に、自身と妻がモデルになっており、強い配色とふたりの表情が人生の「盛夏」を物語ります。風景画からは、東山魁夷の大作《瀧》。「瀧の響きがかきたかった」という本作は、魁夷の隠れた名作です。

油絵では、藤本東一良の《コンカルノのバルコン》、南政善の《馬ならぶ》などを展示します。前者はフランス北大西洋側の港町コンカルノを、室内からバルコニー越しに色彩豊かに描いた作品。後者の《馬ならぶ》は、馬を三頭正面から描き、右の二頭に男児を乗せて牧歌性を謳っています。空の青と大地の朱色の対比

は強烈で、半袖半ズボンの少年と相まって盛夏を感じさせます。南政善の戦前の代表作です。

彫刻の展示は、海と躍動感がテーマです。山瀬晋吾《波乗り》や矩幸成《しぶき》は、躍動感にあふれ、水しぶきが見えてくるような楽しい作品です。また、夏の終わりを感ぜさせる銭亀賢治《去りゆく夏》も併せて展示します。その他、大きさも素材も様々な彫刻をお楽しみください。

版画では脇田和の作品をご覧ください。脇田はベルリン国立美術学校で、木版・銅版・リトグラフなど一通り学び、戦後、東京芸術大学で初めて開設された版画教室の講師として招かれました。版画の先駆者ともいえる脇田の「夏の帽子」など、季節の題材をお届けします。

第3、4展示室でどうぞ優品の数々をご堪能ください。



矩幸成 《しぶき》

水辺をたんけん！

7月27日(金)～8月28日(火) 会期中無休

美術館の中が動物でいっぱいこの今季、工芸の展示室では水辺に目を向けました。石川県には海もあり、川もあり、豊かな自然風景が広がっています。そんな水辺の景色を思い起こしながら、楽しんでいただける展示を目指しました。

水辺探検の始まりは、「海のなかま」です。大きな魚や海老、蟹、貝をとらえた作品として、初代中村秋塘《色絵青海波貝文花瓶》や北出塔次郎《色絵海老図陶箱》をご紹介します。対して竹田恒夫《萌黄釉裏金彩蛙鳴文鉢》や中嶋珠光《金魚文台鉢》に見られる「川・湖・池のなかま」は、とても小さな生きものたちです。彼らを狙う水鳥たちの姿も、水辺には欠かせないでしょう。蒔絵の人間国宝、寺井直次は白鷺を好んで

題材としましたが、今回はその一つ《白鷺蒔絵箱》を展示しました。

探検に必要なのは、豊かな想像力です。壁面には「水辺の音」を感じさせる作品を集めました。小松芳光《噴水屏風》は文化財保存修復工房での修理後、初公開です。ざあざあ、ちよろちよろ、さらさら、一体どんな音が聞こえますか。子どもたちにも聞き耳を立ててほしいと思います。そして、探検の最後にたどり着くのは「水辺の不思議」です。古来より水辺には想像上の生きものや、仙人の住むイメージが仮託されました。「鯉が滝を登ると龍になる」などと言うのが、代表的です。一体どんなものが隠れているか、ぜひ「水辺をたんけん！」として見つけてください。



竹田恒夫 《萌黄釉裏金彩蛙鳴文鉢》

ミュージアムレポート 学校出前講座

今年度の学校出前講座がはじまりました。六月に二校、九月末から十一月にかけて八校と、加賀市から羽咋市までの県下十校で開催予定です。この出前講座がはじまって十四年目に入り、開催校はのべ百二十校を超えています。今までは未開催校優先で開催して参りましたが、すでに開催した学校からのご要望も多く、今年度は開催予定校十校のうち、今までに開催済みの学校が三校あります。次年度以降も開催が少ない地域へのセールスも行いながら、開催済みの学校へのご要望も受け入れ、作品を鑑賞する楽しさを県下のたくさんの子どもたちに伝えて行きたいと思っています。

文化財現地見学予告

石川県立美術館では、毎春秋に一泊二日の日程で、学芸員と行く「文化財現地見学ツアー」を企画しています。第四十九回の今秋は「岐阜県土岐散歩(仮)」と題して、次のような行程を予定しています。

◆開催日時

十月二十日(土)午前七時頃 金沢駅発
十月二十一日(日)午後七時頃 金沢駅着

◆訪問場所(予定)

洲原神社、清泰寺、荒川豊蔵資料館、可児市戦国山城ミュージアム、
多治見市美濃焼ミュージアム、元屋敷陶器窯跡、岐阜県博物館

◆移動方法

貸切バス

具体的な旅程やお申し込み方法については、来月号の美術館だよりでお知らせいたします。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

美術館友の会 第16回バスツアー報告

平成30年5月27日(日)実施

今年度の春の日帰りバスツアーは、「富山再発見の旅―富山最古の仏像に会いに行く―」と題して、富山県の富山市、中新川郡、下新川郡、滑川市を巡りました。

まず、はじめに北陸三十三カ所観音霊場の常楽寺へ。住職様のご解説をいただきながら、普段お目にかかることができない、富山県最古の重要文化財、聖観音立像と十一面観音立像にお会いしました。次に、磨崖仏で有名な寺院、日石寺へ。当日は、不動明王御尊前護摩祈禱の見学やメグスリノキのお茶を楽しむことができました。加賀藩前田家とのゆかりも深く、ご解説を聞きながら敷地内を散策しました。

ほたるいか尽しの昼食をはさんで、午後一番は朝日町立ふるさと美術館へ。学芸員の島瑞穂様に、知られざる木彫師・俊海(尾崎亀次郎)の生い立ちとその作品についてご解説していただきました。

最後に、二〇一七年にリニューアルオープンした富山県美術館へ。こちらでは、館長の雪山行二様、学芸員の丸山多美子様より、富山県美術館の説明や作品についてご解説していただいた後、館内を自由に観覧しました。

気持ちの良い晴れ空にも恵まれ、ご参加者の皆様や各見学地の皆様のご協力により、無事に全行程を終了することができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。



常楽寺にて

第8・9展示室

日中瓦当文書篆刻展

8月30日(木)～9月3日(月) 会期中無休

- 中国文化交流の中枢機関である中国人民対外友好協会と共に開催する本展は、屋根瓦の先のところに施された文字や文様「瓦当」がテーマです。瓦当は三千年前の中国西周時代にはじまり、春秋戦国、秦漢時代を経て、漢代に発展は頂点に達しました。文字を刻した「瓦当文」も多く残り、日本では奈良時代に中国より伝来され、寺院建築に多く残されています。今回、瓦当文をテーマに日中両国の書・篆刻作品を約百五十点展示、中国側から瓦当の時代変遷がわかるよう参考史料として瓦当拓本六十点も同時に展示いたします。
- ◇主催 北枝篆会、中国人民対外友好協会、陝西省人民対外友好協会、西安秦碾漢瓦博物館
- ◇共催 石川県日中友好協会
- ◇後援 北國新聞社、北陸放送、テレビ金沢

第7展示室

第9回 石川県日本画会展

8月30日(木)～9月3日(月) 会期中無休

- 「日本画を志すものが、これまでの既存的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内での発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、日本画の会をスタートして今年で九年目になりました。
- 若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。
- ◇入場無料
- ◇連絡先／輪島市鶴入町二一三七
石川県日本画会事務局長 宮下和司

夏のミュージアムウィーク

緑豊かな兼六園周辺文化の森で、夏を満喫する「夏のミュージアムウィーク」。当館関係のイベントをご紹介します。

◆動物園deスケッチGO!

美術館に動物園がやってくる! 楽しく学べる動物園で動物に関するお話を聞いた後、スケッチを行います。スケッチ体験は申し込みが必要ですが、猛禽類の解説およびフライト実演(午前十一時半～、午後二時半～)は、どなたでも自由にご覧いただけます。

- 日時 八月十二日(日) ①午前十時～十二時 ②午後一時～三時
- 対象 小学生親子、定員各回五十人(先着順)
- 申込 前日午後五時までに電話で申込(〇七六一二二二一七五八〇)
- 費用 無料

◆御朱印帳をつくってみよう

手作りの御朱印帳を持って、県内の神社やお寺をまわってみよう。

- 日時 八月十七日(金) ①午前十時～十二時 ②午後二時～四時
- 対象 小学校四～六年生とその保護者、定員各回五組
- 申込 往復はがきに体験名、希望時間、参加者全員の氏名、学年、住所、電話番号を記載のうえ申込(七月三十一日必着)
- 宛先…〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町一―一
石川県立美術館広坂別館
- 費用 五〇〇円
- 応募者多数の場合は抽選になります。

会期：平成30年9月15日(土)～10月14日(日) 会期中無休



玉椿象谷 《彩色蒔罨御料紙硯箱》重要美術品 香川県立ミュージアム



赤地友哉 《曲輪造毬形洗朱喚籠》ポーラ伝統文化振興財団



音丸耕堂 《彫漆カトレヤ菓子器》
石川県輪島漆芸美術館



白山松哉 《蝶牡丹蒔絵沈箱》
MOA美術館



六角紫水 《理想界の図蒔絵手箱》広島県立美術館



松田権六 《蒔絵襖に四十雀模様二段卓》東京国立近代美術館

次回の展覧会

平成30年9月1日(土)
～10月14日(日)

		前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
		加賀藩の美術工芸	漆の美
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	1F企画展示室
鴨居玲 教会	漆皮 近代の文化財修復と伝承	優品選	URUSHI 伝統と革新 9月15日(土) ～10月14日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料
一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション
展示室無料の日(8月は6日)

今月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

8月の休館日は29日(水)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第418号(毎月発行)
2018年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>